

同窓会活動10周年をむかえて

同窓會報

第十一号

| | |
|-----|-------------|
| 編集 | 同窓会報 |
| 編 集 | 委員 北窓 |
| 発行 | 千葉県立千代田高等学校 |

一層の御支援を



校長 泉 水 信 宏

同窓会役員の方々とは、何度となく、話し合う機会をもつことができました。その中から、同窓生四千百余名の皆さん方が、本校で学んだことを誇りとして、各界で大いに活躍され、その実績をあげられていることや、又各大学等で、意欲的に、自己研鑽に励まれている様子など

を聞き、大変頼もしく思い、同時に深く敬意を表します。

お陰様で、本校も創立十三年目を迎え、十周年を一つの区切りとして、今までに培われてきた堅実な基盤の上に、更に飛躍するべく、第二の発展期を迎えたという自覚の基に、教職員・生徒一体となつて努力してまいっております。

有難いことに、教職員は教育に對し御熱心な方ばかりでございませし、生徒は又、その指導に應えて意欲的な学校生活を送っておりますので、その実績も着実に上ってきております。

例えば、運動系の部活では、大部分の部が、地区予選に勝ち、県大会に駒を進めることができま

たし、中でも、ラグビー部の春季大会優勝を頂点として、庭球部・バドミントン部の三つが、関東大会に出場し、大いに活躍されました。文化系では、本校始まって以来の快挙として、吹奏楽部が県大会で金賞となり、県代表として前橋で開かれた関東大会で銀賞の榮譽に輝くことができました。

学業面でも、進路状況からして、社会的に評価されている大学への進学も確実に増加し、その実績も上ってきております。それにしても大学入試の厳しさは大変なものがありますので、この対応に向けて、一層の充実を計ってまいりたいと存じております。

とにかく、皆様方の御期待に添うべく、教職員一同、英知を集めまして、本校発展のために尽力をいたしたいと存じますので、皆様方には、より一層の御支援・御協力をお願いいたします。又、皆様方には、御健康に十分留意されて、自己の能力・適性を生かされ、各分野で大いに活躍されることを強く希望してやみません。

へ 泉水信宏校長先生は、第五代本校長として、県立幕張東高校より六十二年四月一日、赴任されました。▽

らしんばん

昭和五十三年三月九日、本校三階会議室に一期生三百六十名が一同に会して、同窓会発会式が行われました。初代会長には、在校中に初代生徒会長を務めた山中宏君が選出され、同窓会活動はスタートしたのです。

学校が新設校なら、同窓会として例外であろうはずはなく、すべて無から有を創ることになりました。仕事の都合で、山中会長が東京在住となった為、前会長の妹尾君や現会長の土屋君を中心に会の基盤づくりに取り組んで参りました。

現在、クラス会を中心とする親睦の他、部活動等のOB会が数多く発足し、それぞれ独自の交流を推進する状況がみられ、役員一同うれしく感じております。しかしそれぞれが、**点**として活動する意義こそあれ、**線**を描くことが出来ないのが実情です。また、同期生同志の交流はあってもタテの交流がなければ、お互いの研修・発展にはつながりません。

「線」は、**絆**へと発展させることが出来ます。それを可能にする場を設け、各人が参加してゆく『コミュニケーション同窓会』——それが十年目の課題と考えています。

昭和61年度千葉北高等学校同窓会決算書 (61.8.1~62.7.31)

収入総額 2,358,793円 - 支出総額 1,801,763円 = 差引残高 557,030円

収入の部

| 科 目 | 予 算 額 | 収入済額 | 増 減 額 | 付 記 |
|-----|-----------|-----------|--------|------------------|
| 会費 | 1,620,000 | 1,676,500 | 56,500 | 在籍数×12(月)×100(円) |
| 繰越金 | 651,130 | 651,130 | 0 | |
| 雑収入 | 15,000 | 31,163 | 16,163 | 預金利息・名簿販売 |
| 計 | 2,286,130 | 2,358,793 | 72,663 | |

支出の部

| 科 目 | 予 算 額 | 支出済額 | 予算残高 | 付 記 |
|-----------|-----------|-----------|---------|------------|
| 事務運営費 | 550,000 | 522,190 | 27,810 | |
| ・通信・旅費 | 300,000 | 284,740 | 15,260 | 会報郵送料・総会案内 |
| ・印刷費 | 110,000 | 102,000 | 8,000 | 集書代等 |
| ・役員会費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 昼食代 |
| ・年度別幹事会費 | 40,000 | 40,000 | 0 | 昼食代 |
| ・事業費 | 50,000 | 45,450 | 4,550 | 封筒代・フェイル代 |
| 事業費 | 880,000 | 692,588 | 187,412 | |
| ・会報発行費 | 150,000 | 108,000 | 42,000 | 会報印刷代 |
| ・総会運営費 | 200,000 | 83,750 | 116,250 | 茶話会・会場代 |
| ・卒業記念品費 | 100,000 | 74,400 | 25,600 | 卒業証書筒 |
| ・十周年記念事業費 | 430,000 | 426,438 | 3,562 | 別記 |
| 慶弔費 | 150,000 | 76,000 | 74,000 | 転任職員謝礼 |
| 同窓会館設立準備費 | 25,000 | 0 | 25,000 | |
| 同窓会館設立積立金 | 450,000 | 450,000 | 0 | |
| 同期会費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| 予備費 | 131,130 | 60,985 | 70,145 | O B会連絡協議会 |
| 計 | 2,286,130 | 1,801,763 | 484,367 | |

上記の通り報告致します。

昭和62年8月23日 同窓会会長 土屋 誠

上記監査の結果、適正であることを認めます。

昭和62年8月23日 会計監査 矢島明子 黒澤慎也

昭和62年度千葉北高等学校同窓会予算書(案) (62.8.1~63.7.31)

収入総額 2,258,030円 - 支出総額 2,258,030円 = 差引残高 0円

収入の部

| 科 目 | 予 算 額 | 前 年 度 | 比較増減額 |
|-----|-----------|-----------|----------|
| 会費 | 1,686,000 | 1,620,000 | 66,000 |
| 繰越金 | 557,030 | 651,130 | △ 94,100 |
| 雑収入 | 15,000 | 15,000 | 0 |
| 計 | 2,258,030 | 2,286,130 | △ 28,100 |

支出の部

| 科 目 | 予 算 額 | 前 年 度 | 比較増減額 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 事務運営費 | 600,000 | 550,000 | 50,000 |
| ・通信・旅費 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| ・印刷費 | 120,000 | 110,000 | 10,000 |
| ・役員会費 | 70,000 | 50,000 | 20,000 |
| ・年度別幹事会費 | 60,000 | 40,000 | 20,000 |
| ・事業費 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 事業費 | 630,000 | 880,000 | △ 250,000 |
| ・会報発行費 | 200,000 | 150,000 | 50,000 |
| ・総会運営費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| ・卒業記念品費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| ・O B会連絡協議会費 | 130,000 | 0 | 130,000 |
| ・十周年記念事業費 | 0 | 430,000 | △ 430,000 |
| 慶弔費 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| 同窓会特別活動基金 | 650,000 | 475,000 | 175,000 |
| 同期会費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 予備費 | 128,030 | 131,130 | △ 3,100 |
| 計 | 2,258,030 | 2,286,130 | △ 28,100 |

上記の通り報告致します。

昭和62年8月23日 同窓会会長 土屋 誠

昭和六十一年度決算・ 昭和六十二年度予算について

会 計 若 林 康 裕

昭和六十一年度決算において、一般会計の収入総額二百三十五万八千七百九十三円、支出総額百八十万七千七百六十三円、差引残高五十五万六千八百三十円となりました。

収入・支出の内訳は別記の通りですが、支出の部の事業費・創立

十周年記念事業費については、別記会計報告とします。

これは、六十年会計より計上されており、母校の創立十周年記念として同窓会名簿・十周年記念誌の編集・販売を行うためのものです。六十年会計では、予算よりも支出額が多かったため、六十

一年度予算に計上しました。次に、特別会計となっている同窓会館設立積立金について報告します。

これは、昭和五十九年度予算より別会計となり、昭和六十年会計で積立総額は千二百二十五万二千九百円となりました。

そして、この中より十周年記念事業の一環である部室増設のため六百万円を「創立十周年記念事業実行委員会」へ寄付しました。

これは、同窓会が後援会に協力し、後援会からは、同窓会館設立に關し全面的協力をしてもらおう事で、両役員が合意したからです。

しかし、同窓会館設立は、千葉県で進めているセミナーハウスとの関連で、違った形で実現する事になりそうです。セミナーハウスとは、合宿所を兼た建物で、千葉県内の各高校で予定されているものです。

このため、今までの積立金を、同窓会館設立のためのものだけでなく、広く同窓会活動に役立てるための積立金に変更する事になりました。これが六十二年予算に計上されている同窓会特別活動基金です。

そして、今までの積立金は特別活動基金として、特別会計枠で残

ります。この特別活動として、NECのPC9801VXを購入し、同窓会名簿等の整理に活用しています。二月の初めには、校内に設置し、在校生の成績処理等にも活用してもらう様にします。

前後が逆になってしまったようですが、最後に昭和六十二年度予算について報告します。

一般会計の収入総額二百二十五万八千三十円、支出総額二百二十五万八千三十円を予算として計上しました。この内訳は別記の通りです。収入の部で、前年度と比べて繰越金が少ないですが、十周年記念事業費がなくなったため、支出科目の中では多くなっているものもあります。

また、収入方法が変更される予定でもあり、収入・支出の縮小化が会計の課題になります。

収支報告のポイントがずれてしまったかもしれません。十周年関係の予算が六十一年度までかかってしまったため、他の科目の予算が削られて、切り詰めたものとなった事は、遺憾でした。

尚、特別活動基金ができた事で、同窓会活動もより充実を計ることができると思いますので、会員各位の一層の協力をお願いします。

千葉北高等学校創立十周年記念事業会計報告

| | | |
|----------------|----|---------|
| 支出 | 残高 | 426,438 |
| 昭和61年度一般会計より支出 | | 426,438 |
| 残高 | | 0 |

※ 上記支出により、創立十周年記念事業会計は終了しましたので一般会計十周年記念事業費は、62年度会計より削除されます。

上記の通り報告致します。
昭和62年8月23日 同窓会会長 土屋 誠

千葉北高等学校同窓会館設立積立金会計報告

| | | |
|-----------|-----|------------|
| 〈収入〉 | 積立金 | 6,250,129 |
| 前年度までの積立金 | | 450,000 |
| 昭和61年度積立金 | | 124,696 |
| 預金 | 子金 | 4,000,000 |
| ※ 寄付 | | 1,082,482 |
| 計 | | 10,824,825 |

※ 創立十周年記念事業実行委員会より、4,000,000円を同窓会へ寄付していただきましたので、これを積立金に入れます。

上記の通り報告致します。
昭和62年8月23日 同窓会会長 土屋 誠
同窓会館設立準備委員 尾 篤 人

連載 千葉北高と私 (7)

不自由な 生活の中で

初代生徒会長
一期生 山中 宏

北高の想い出は、第一期卒業の僕は、記憶をたどるのに苦心しますが、入学当時を思い起こせば、たしか東高で受験し、入学式は、こてはし中学校の体育館で行なわれたような気がします。

校舎は、こてはし中学校の校庭のすみにし字型に並んだプレハブでした。壁はもろくて、誰かが蹴つとぼしたら穴が空きました。屋根はトタンのようでしたが、風雨が強くなると、雨音の騒音で授業が中断され、下校になってしまったり……。

部活動は隣の公園で、設備がないので、例えば、サッカーゴールは木と木の間、バドミントンなどはネットなし、バスケットやバレーボールも屋外。それでも、それぞれに工夫して、一年生だけの活気に満ちていました。

辺りには自然が残っていました。初めてのマラソン大会は、山道や畑を横切ったり……。通学は、田園風景を自転車で駆けぬける青春でした。

一年生の後期だったか、僕は生徒会の役員として、長沼の新校舎建設予定地の地鎮祭に行きました。質素な地鎮祭が、何も建っていない、ブルドーザーが一、二台ありましたか、やたら広い土地と対照的でした。この地に、現在の立派な建築物が立つ姿を、当時は想像しようがありませんでした。

新入生を迎えるの二年目が、長沼の新天地のプレハブでスタートしました。空き地が広く、付近に落花生畑があったせいか、猛烈な砂ぼこりが、窓の隙間から吹き込んで来て、教室の床に広がりました。毎日非常に乾燥したようであり、何度も大量に水を呑んだ記憶があります。

そんな条件の中でも、とにかく工夫して建設していくという活気が、先生や生徒にありました。練習時間の大半をトンボ（整地用の棒）を持って整地に費やした



り、廊下や階段を利用しての練習体育館を借りるのに東奔西走された先生もおられたでしょう。文化系の部も、それぞれに努力を重ねて、毎日活動を続けていました。鉄筋の新校舎が全て出来たのは三年生の時だったと思います。そして、現在の立派な体育館を初めて使ったのは、卒業式の時でした。

(横浜小机郵便局勤務)

北窓

去りて今想ふこと

下地 正信

千葉北高校に初めて来た時には今の三丁教室は事務室であった。校長面接を受ける為に北高に行つたのに学校は特別指導の最中で、落ち着かなかつたのを覚えてある。長妻先生（現佐倉東高校教頭）が異動された後を引継ぎ、三年E組の担任となつたが、とにかく個性豊かな学級であつた。

その後は残念乍ら一年生の担任になつた事もなく、殆ど三年生を担当してゐたので必然的に転動後の数年間は、千葉北高で卒業生を一番多く保有してゐた担任であつた（内心自慢してゐたものだ）。今思へばやりたい放題の学級経営で、三つ編みをする者だけが本当の女子生徒である等と言ひ続けてゐた。

私が一番嫌つたのは、感覚で授業をする事であつた。長年に亘り国語の授業で欠けてゐたのは論理性であつたと思つてゐる。国語だから感性でよいといふのは、実は論理的に表現する事の出来ない者の言ひ訳に過ぎない。言葉では表現出来ない程の微妙なものである、などといふのは表現をする能力が

写真部員のころ

五期生
福本 猛

早いもので私が北高を卒業して六年になります。どなたにとっても高校生活の三年間は貴重な時間であり、印象深いものであったと思いますが、私にとって高校生活は、たいへん楽しいものでした。その中でも、部活動が大きな位置を占めています。

私は、三年間を通じて写真部に所属していましたが、その切掛けは、入学式の日の校門に上田賢先輩という人物が三脚と共に立っていたからです。そして数日後、気乗りのしない級友鈴木善幸君を連れて物理準備室内の暗室へ向ったのでした。

部の先輩によると、我々写真部は一期生が創設し、二期生が高めたということでしたが、私等五期生はその二期生と入れかわりて入ったのですから期待は大きく、たいへんな歓迎を受けました。しかし、見るからに個性的な先輩方には圧倒されてしまいました。

夏休みになると写真コンテストの準備を始めます。全員参加が原則の上、半切パネル張りと手間のかかるものでしたが、三山秀雄先

輩宅へ泊まり込み、中村道明先輩と共に写真成作に励みました。すると部屋に蟬が飛んで来て、現像液のバットに落ちてしまったのです。心優しい三山先輩は、蟬をつかむとしっかり定着液に入れて中和(?)してから外へ逃がしてやりました。このコンテストでは、出品者の過半数が入選し、面目を保ちましたが、鈴木善幸君は出品しなかったため、自主的に頭を短かく刈って責任感の強さと潔よさを見せました。これは後の話ですが、彼は夏休み中に暗室の掃除をする為に学校へ来たりもしていました。



二期期が始まると文化祭に向けて動き出します。写真の作成そのものは個人的なもので、それぞれ好きなものを撮影し、引伸すので脈絡のない写真を展示することになるのですが、テーマを決めた場合とは違った良さがあるような気がします。

冬休みに入ると、またコンテストの準備です。この時は、引伸しに何日もかかりましたが、鈴木君といっしょに入選できたことが良い思い出になっています。

*

こうして一年が過ぎたわけですが、紙面の都合で終わりにしなければなりません。個人的なことを好き勝手に書きましたが御了承下さい。

最後になりましたが、在校中は先生方に多大な御迷惑をおかけしたことを、この場をお借りして、お詫び申しあげます。

(司法書士事務所勤務)

投稿歓迎します

このコーナー「千葉北高と私」へ、あなたの思い出の記、あるいは近況報告をお寄せ下さい。原稿はタイトル込みで七五〇字です。へ宛て先〒二八一千葉市長沼町一五三千葉北高校同窓会・会報係

無いか又は表現する努力をしない者のたはごとく過ぎない。勉強である以上必ず論理が有る筈だ、と言ふのが私の考へであった。だから、何故だ、何故だと常に問ひ続け、考へ方の法則性を求め続けた。生徒には過酷であったかも知れないが、授業で習った文章しか理解出来ず、他の文章を同じ発想で考へる事の出来ない国語の授業などは授業とは言へない、と思ひ続けてゐた。

そして今、幕張の若葉看護高校に転勤し、授業をする事も無くなつてしまつた。ただ一言、淋しいとだけ言つておかう。現在校は何故か女子校である。将来看護婦になる事を夢見る生徒達が学んでゐる。私はこれで、病気になるつても県内の施設には入院出来なくなつた。その上、この学校では大きな百合しか咲かない。

(若葉看護高校教頭)

編集部注・本文中の長妻孝治先生は、一月一日付で県教委学校保健課へ異動されました。



OB会探訪 (2)

野球部OB会

今年の、夏の高校野球もPL学園の優勝で幕を閉じ、その瞬間、来年へのスタートがきられた。我々にとつて、夏といえはいくら時が過ぎようとも、野球を語らずにはいられないだろう。

我々、千葉北高校野球部OB会も今年で百名を越え、十期生までそろい、増々、会の規模が大きくなっていく。本会は、一期生が卒業後、三年目に発足し、現在に至っており、野球部に微力なりとも援助をするということが目的である。

学校側からの野球部への予算が、毎年多少とも上がっているとは言ふものの、まだまだ金額において不足ということが叫ばれている。本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもつてあて、会費は年間一口、三千円となっており、その中から、バッティング・マシンを購入し、現在も北高で活躍している。その他、バット、ボールな

ど出来る限りの援助をしている。またそれだけでなく、一期生から十期生までそろうと、上と下との交流が薄くなるため、年一、二回相互の親睦を図るために、酒を交えて会合を行なっている。また、本会は会長をはじめ、副会長、書記、会計、会計監査、渉外と役員を置き、目的の遂行のため従事している。

近年、野球部も春の大会で、ベスト8入りを果たし、OBにとつてこれほどうれしいことはない。我々は母校のために、できる限りの援助をし、そして野球部の発展に少しでも参加することができれば幸いである。しかし、我々OBにとつて部員への期待は、やはり夏の甲子園への夢へと広がってしまふ。

(野球部OB会長・一期生

泉 孝雄)

へ事務局より

泉さんは、千葉新宿海洋少年団の指導者としても活躍されており



地学部OBを捜せ!

「地学部で何しているの?」

これは、私が卒業の時に書いた新珠の出だしの文面である。当時、我々部員は、この間に動揺はあったものの、妙な満足感を覚えていた。なぜなら、我々にとつての「地学部で何しているの?」は元気になる地学部の源のような言葉であったからだ。その言葉が、再デビューすることになった。それは、「地学部OB会で何しているの?」である。いみじくも、我々は、その十三文字の日本語に深い暖かみを感じる今日この頃である。さて、このようにテーマと違った内容を長々と続けたかというところOB会について誇らしげに語るのとが無いからである。そもそも地学部OB会というのは、発足は自然に、会員数は登録ではないので、地学部の卒業人数である。会としての規約もなければ、会費もなく役員もいない。活動としては、年に一回、酒を飲みに来る程度であった。

しかし、近年、このような風潮にもピリオドが打たれ、後輩等による有意義なOB会作りが始まる

うとしている。又、OBの一部には、OB会とは別に星仲間として現在でも、星旅行に行ったり、地域のお祭り等に参加したりして、幅広い活動をしている一派もあることも付け加えておきたい。

最後に、OB会としては何もしてないようではあるが、十年も経つとすべてのOBと、つながりを持つことは、不可能に近いとも思える。ただ、OB会の意義という点からは、我々は、OB同志が何かをやるという環境を作ったという面でOB会の存在には、大きな意味があったと思う。今後も、OB会が、それぞれの分野で活動するときの母体となっていくように期待したい。そのためにも、消息不明のOBに私は、声を大にして言いたい。

「OBよ、心配事はなくなった。至急連絡をくれ! モロエ」

(東京理科大学理学部在学・

六期生 諸江 滋和)

〒二八二 八千代市勝田台

四一十七ー四



年度始めの教職員異動

〈退職〉

- 関本 克己(校長)
- 松葉 昭(事務主幹)
- 鶴澤 謹爾(教諭・社会)
- 湯浅 学(教諭・社会)

〈転出〉

- 下地 正信(教頭・若葉看高)
- 南 寛正(鹿児島県立南薩養護学校)
- 須藤 信夫

北高ニュース

〈新任〉

- 泉水 信宏(校長・幕張東高)
- 菅原 忠雄(事務長・鎌谷高)
- 酒井 正夫(教諭・船橋東高)
- 鈴木 良國(教諭・市川南高)
- 武田 信一(教諭・佐倉西高)
- 齋藤 励輝(教諭・磯辺高)
- 荘司 和子(実助・検見川高)
- 鶴澤 謹爾(特講・千葉北高)
- 伊藤 雄大(期講・大東文大)

部活動の記録

- ソフトボール部(男子) 第10回勝又杯争奪大会 第三位
- 新人戦 ソフトボール部(女子) 第三位
- 千葉県中部地区大会 三部優勝
- 野球部 第17回夏季市内大会 三回戦敗退
- 秋季県大会予戦 一回戦敗退
- バドミントン部(男子) 新人戦ブロック大会 第二位(団体)
- 新人戦県大会 一回戦敗退(団体)
- バドミントン部(女子) 新人戦ブロック大会 第一位(個人シングルス)
- 新人戦県大会 浴 博子 二回戦敗退 井上千尋 一回戦敗退
- バレーボール部(男子) 内房大会 一回戦敗退 千葉市民大会 一回戦敗退 船橋市民大会 三回戦敗退
- 剣道部(男子) 新人戦ブロック予選 決勝トーナメントで敗退
- 剣道部(女子) 新人戦ブロック予選 予選リーグで敗退

陸上競技部

- 新人戦県大会 松壽浩長 5位
- 二百M 22秒3

柔道部

- 新人戦ブロック予選(団体) 決勝トーナメントで敗退

テニス部(男子)

- 秋季県大会(個人) 北畠・寺嶋組 一回戦敗退 高橋・小川組 二回戦敗退

テニス部(女子)

- 新人戦県大会 二回戦敗退(団体)

新人戦県大会(個人)

- 小川内・中川組 ベスト32 木下・田辺組 二回戦敗退

サッカー部

- 県高校選手権大会 一回戦敗退
- 新人戦ブロック予選 二回戦敗退

ラグビー部

- 千葉市内大会Aブロック 優勝
- 総体県予選 二回戦抽選負け

写真部

- 県高校写真展 藤田知彦 入選

吹奏楽部

- 吹奏楽関東大会 バスケットボール部(男子) 銀賞

バスケットボール部(男子)

- 千葉市内大会 優勝
- 新人戦ブロック大会

バスケットボール部(女子)

- 千葉市内大会 二回戦敗退
- 新人戦ブロック大会

部活動以外の活動

- 県高校囲碁秋季大会 大野 学 優勝
- 関東大会出場

吹奏楽関東大会へ

県のコンクールは、小編成の第1部、中編成の第2部、そして関東大会・全国大会へと続く大編成の第3部と大きく三つに分かれています。本校は5年前から第3部に出場し、前回は金賞を獲得しました。

今回は出場各校共に力の入った大会でしたが、本校は運よく市立習志野・市立柏・千葉南と共に関東大会へのキップを手にする事ができました。

9月26日前橋で、東京都を除く関東各県から代表24校が集まり、全国大会出場を賭けた大会が行われました。

本校は赤城青年の家で宿泊、練習をして、初出場、最少人数、最後の演奏と不利な条件の中で関東大会に臨みました。それでも駆けつけて下さった校長先生の激励を受けて、精一杯の演奏ができて、「銀賞」という思いもかけない好成绩を取ることができました。

事務局通信

◎高橋星四先生の後任に鈴木良國先生—常任理事—◎



今年度、これまで校内事務運営にあたって下さった高橋星四先生が磯辺高校に転任となり、

後任として市川南高校より赴任された鈴木良國先生(写真)があたりられることになりました。常任理事として、会計および連絡調整の仕事をお願いします。

◎花島良一君救援対策委員会の報告◎

昭和六十一年九月十五日に当時二年生のラグビー部員花島良一君が頸椎損傷という重傷を負い、事態の緊急性と重大性から外郭団体を挙げて救援対策活動に一意専心取り組んで参り、皆様から多額のご援助をいただきました。募金の内訳は別掲の表の通りです。特に、ラグビー部OB会を中心に部活動OB会の団体からは真心のこもったご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

花島君はその後県立袖ヶ浦養護学校へ転校し、隣接するリハビリセンターで機能回復のための訓練に取り組み、これまでに特殊な棒を口にくわえワープロの使用が可能になったほか、電動式車椅子の利用で月二、三回自宅への外泊をしたり、昨年の十月上旬には関西方面に両親付き添いで旅行するなど新たな生活に意欲を燃やしているとのこと。また、右手が肩の高さまで上がるようになったとも伺っております。

申請していた傷害者一級手帳も交付されました。

ところで、去る十二月五日に対策委員会が開かれ、花島君が順調にいくと三月卒業になることから卒業記念を贈ることを決めました。卒業記念品代については、前回の募金総額の一割程度を目標とすることとし、同窓会は十万円程度を協力することになりました。これを受けて十二月十二日に幹事会を開き、援助方法について協議した結果、今回は同窓会の予算内から充当することが妥当、ということになりました。記念品代は一月末に対策委員会で一括され、花島君へ届けられることになっております。

花島君救援活動については、今

花島良一君救援対策募金収支決算

| | | |
|------|-------------|-------------|
| 収入の部 | | 6,720,260 円 |
| 内訳 | 保護者 | 3,327,000 円 |
| | 同窓会 | 2,957,260 円 |
| | 教職員 | 423,000 円 |
| | 旧教職員他 | 130,000 円 |
| 支出の部 | | 6,720,260 円 |
| 内訳 | 見舞金 | |
| | PTA・後援会 | 2,000,000 円 |
| | 同窓会・OB会・教職員 | 1,624,000 円 |
| | | 2,911,260 円 |
| | | 185,000 円 |
| 残高 | | 0 円 |

以上の通り収支決算報告をいたします。
昭和62年3月20日
花島良一君救援対策委員会

後も随時ご連絡致しますので、ご協力の程お願いします。

◎同窓会専用パソコン設置◎

同窓会活動にコンピュター導入の必要性が増してきたため、幹事会の承認を得て、今年度、NEC PC19801VXパーソナルコンピュターを購入しました。同窓会活動は土・日に限られませんが、普段は学校職員の方々に成績処理等で利用していただきます。

OB会等でご利用になりたい方は、土屋会長、もしくは常任理事の鈴木良國先生までご連絡の上、ご相談下さい。

編集後記

昭和六十三年三月九日。同窓会は十周年を迎えます。一期生三六〇名が、今では同窓生四千五百名を数える外郭団体へと発展してきました。

ホーム・ルームを単位とするクラス会もありますが、部活動等OB会のみとまりも最近では目立ってきています。

「新設校」の看板はすでに過去のものとなりましたが、一期生があの時代に求めたパイオニア精神はいつになっても失ってはならないものでしょう。常に新しいものを貧欲に求められる同窓会でありたいと思います。(田村)